

事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」白金高輪校			
○保護者評価実施期間	2025年11月7日 ~			2025年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年11月10日 ~			2025年12月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月14日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心感をもって楽しく通所していること。	こどもが「きらり」で楽しく過ごすことで、自己肯定感を高めることができるような支援を職員全体で心掛けています。	「誰にだって輝ける舞台がある」というのが弊社の基本理念です。この理念に基づき、できたことを肯定的に認めていくことを大切にしています。
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫していること。	担当制では無いので、各指導員がそれぞれのこどもに合わせて特色を生かした支援をしているため、固定化しないようになっています。	中には変化を拒み、固定化で安定することももいます。今後もこどもの現状に合わせて、柔軟に対応していきます。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていること。	毎回支援後に指導員と保護者の間で15分の振り返りの時間を設けています。必要に応じて、保護者との面談も行っています。	保護者と一緒に子どもの成長を見していくために、保護者への支援も大切であると考えています。その上で、関係機関連携にもつながるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催の機会が設けられていないこと。	保護者会のニーズがある方とそうでない方がいるため、なかなか保護者会を開催できていない現状があります。	保護者への情報提供の場として、無理なくできるところから保護者会の開催ができると考えています。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がないこと。	1時間の個別療育のため、時間内に教室外へ出て地域のこどもと交流する機会を持つことが難しい現状があります。	個別療育で子どもの社会性やコミュニケーション能力が育つように支援することで、地域で他のこどもと楽しく関わることができます。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会がないこと。	支援後の保護者との15分の振り返りや、任意の事業所内相談などで、家族支援を行っていますが、専門的な家族支援プログラムとして系統立てていません。	職員が専門的な研修などを受ける機会を作ることで、保護者を対象にした研修会などを開けるようにできればと思います。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」白金高輪校							公表日 2026年 2月 14日	
				利用児童数		12		回収数		9
		チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	2	0	0				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6	3	0	0				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	1	0	0	すっきりとした片付いた場所なので、目の前の課題に集中して取り組めていると思います。	これからも、子どもが落ち着いて集中できる環境設定をしていきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	1	0	0				
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	7	2	0	0	子どもの気分のムラや、機嫌、体調に合わせて課題を提案していただいているます。	今後も子どもの特性に応じて柔軟に対応し、専門性のある支援をしていきます。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	1	0	0				
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	1	0	0	計画表を作っていただき、一緒に確認して納得しています。	今後も子どもと保護者のニーズに合わせた個別支援計画を作成していきます。		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1	0	0				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	1	0	0				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	1	0	1	「今日はこれをやってみよう」と「ここはもう一度やってみよう」と、色々な内容で子どもも素直に取り組んでいます。	指導員はお子様の現状に合わせて柔軟に対応して、楽しく支援に臨めるようにしていきます。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2	6	0	1	地域交流はなかなか他の皆様の都合から考えると、難しいのではないかと思います。	地域交流の難しさを感じておりますが、何か良い案がないかを考えていきます。		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	1	0	0				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	5	1	2				
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	9	0	0	0				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	1	毎回子どもの最近の様子を聞いてもらっています。	今後も支援後の振り返りで、保護者との情報共有を大事にしていきます。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9	0	0	0				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	4	2	色々な年齢層や時間の都合から保護者会の開催は難しいのではないかと思います。	ニーズがあれば、保護者会の開催を考えていきたいと思います。		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	0	1	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6	1	0	2	LINEで色々な連絡をいただいているます。	いつも気軽に密に連絡ができるので、LINEを有効活用していただければと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1	0	3	皆が通る場所にポスターで教えていただいています。	掲示を見いただき、ありがとうございます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	0	0	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	0	0	3		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7	2	0	0	行って自分の好きな事を聞いてもらえる先生たちがいて楽しんで通っているようです。	お子さまが楽しく通所できていることを嬉しく思います。今後もお子様が楽しく通所できるように努めています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	2	0	0	まだ通い始めたばかりで「わからない」と回答することもありますが、スタッフのみなさまがよく状況を聴いてください、子供の様子を見ながらサポートをしてくださるので、子供が楽しそうに通っています。ありがとうございます。	今後もお子さまとご家族の期待に沿るように努めています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」白金高輪校				公表日	2026年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションを利用して適切な空間を設け、簡単な運動もできるようにしています。	パーテーションの仕切りで、圧迫感を感じる子がいるかもしれませんので、気付けています。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		担当制ではないので、その都度柔軟に指導員を配置できるようにしています。	指導員の病欠などで複数の休みが出ると、人手が足りなくなるので、その時はヘルプ要員を配置しています。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもや指導員が怪我をしないように、環境づくりをしている。1階で段差が無いので、車椅子でも対応可能です。	限られたスペースで物の置き場所が制限されるため、常に整理整頓を心掛ける必要があります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃でアルコール消毒と清掃をしています。換気扇で常に換気をしており、清潔な教室を心掛けています。	今後もアルコール除菌を継続して、清潔な環境を維持していきたいと思います。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育が中心です。子どもの成長に合わせて机を変えています。	使用する机と椅子に限りがあるため、都合や時間帯を見ながら、個別の場所を設定しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に業績評定シートを用いて、目標設定の振り返りをしています。職員で打ち合わせをして共有しています。	業績評定シートを見て振り返る機会を持つようにして、業務改善のために日々精進していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の結果をもとに会議を開き、保護者の意向を把握しました。	今後も保護者の意向を踏まえて、業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1on1などで職員の意見を聞く機会を設けています。	改善まで時間がかかる時もありますが、業務改善につながるように努力していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		現在、第三者による外部評価に取り組んでいます。	外部評価の結果を踏まえて、業務改善に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の発達支援研究所の定期研修などを、オンラインで受講できる体制を整えています。職員が外部研修を受けました。	今後も法人以外の外部研修を受ける機会を設けて、職員の資質向上に努めます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムをホームページ上で公開しています。	こどもを中心に据えて、子どもの意思を尊重しながら支援プログラムを作成していきます。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントの際に、保護者に協力してもらうことで細かなニーズやその子の課題を共有しています。	今後も子どもの状況を把握するアセスメントを大切にしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		指導員にもモニタリングに関わってもらい、それを個別支援計画の作成に生かしています。	支援に関わる指導員の意見を大切にしながら、個別支援計画を作成していきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画は常にファイルから見ることができるので、各指導員は支援計画の内容を共有して、計画に沿った支援を行っています。	指導員の支援内容や支援状況も共有しながら、計画に沿った支援を行っていきます。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人が定めたアセスメントシートを使用していて、個別にファイリングしています。個別の支援記録をExcelで共有しています。	今後も支援記録やミーティングなどで、子どもの状況を把握できるようにしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域を踏まえた「本人支援」、本児と家族のより良い関係づくりをサポートする「家族支援」、関係機関等の連携などの「移行支援」、それぞれに支援目標、支援内容を明記しています。	アセスメントをもとに、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」の支援内容を設定していきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子どもの課題を踏まえて、どのような支援をしていくかを、職員で共有しています。	ミーティングを大切にしながら、チームでプログラムを考えています。	

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		担当制では無いので、各指導員が得意とするスキルを用いて支援しているため、固定化しないようになっています。	今後もプログラムが固定化しないように努めていますが、固定化で安定することにはそのように対応していきます。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		<input type="radio"/>	現状では1対1の個別療育が中心となっております。	利用者様からの希望を聞きながら、小集団療育に取り組んでいきます。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		支援開始前のミーティングで、利用児童、支援場所、使用する机の確認などをしています。	報告・連絡・相談の基本を忘れないようにしていきます。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		<input type="radio"/>	ミーティングは昼に行いますが、必要に応じて、指導員間でのミーティングや社内SNSで情報共有をしています。	社内SNSに記録を残すと後で全員が確認できるので、有効に使っていきます。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		支援記録は欠かさずにとっています。職員全員が支援記録を読むことで、情報共有や支援の検証につなげています。	記録の漏れが無いようにチェック体制をとることで、円滑な業務につなげていきます。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		指導員の協力を得て、6か月ごとにモニタリングを行っています。	今後も本児の課題の達成度を見ながら、定期的にモニタリングを行っていきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		サービス担当者会議や関係機関との会議は、児童発達支援管理責任者が参加しています。状況によって指導員も参加します。	サービス担当者会議には、積極的に参加しています。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		保護者の要望に応じて、関係機関と連携する体制を整えています。幼稚園や小学校との関係機関連携をしています。	今後も可能な限り、関係機関連携をしていきます。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		個別療育で少しづつ自信が持てるようにすることで、集団生活の中へ無理なく移行できるようにしています。保育園を訪問するなどで連携しています。	園や学校がインクルージョンを推進できる環境でない場合もありますが、なるべく支援内容の共有と相互理解を図っていきます。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		保護者から依頼された小学校へ提出する申し送り書に、支援内容などの共有事項を書いています。	小学校や特別支援学校と直接つながることはできていませんが、できる限り連携をしていきます。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援センター主催の研修に、指導員が参加するようにしています。相談員がモニタリング等で来所する際に、いろいろご意見をうかがうようにしています。	今後も児童発達支援センターとのつながりを大切にしていきます。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		<input type="radio"/>	1時間の個別療育のため、教室外へ出て地域のこどもと交流する機会があります。	地域の他のこどもとの交流は難しいかもしれません、方法を探っていきたいと思います。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		毎回支援後に15分の振り返りの時間を設けています。必要に応じて、事業所内で保護者との面談も行っています。	ご家族への支援も大切なことで、今後も支援後の振り返りの時間を大切にしていきます。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		<input type="radio"/>	支援後の保護者との15分の振り返りや、任意の事業所内相談などで、家族支援を行っています。	ペアレント・トレーニングまでは取り組めていませんが、これからも保護者の要望に応えられるように取り組んでいきます。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		契約時に管理者が重要事項説明書を見せながら説明し、質問に回答しています。	今後も丁寧な説明を心掛けていきます。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		契約時やモニタリングの時に、支援記録やアセスメントなどを元に子どもの現状を共有し、意向を確認するようにしています。	子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を忘れないようにしていきます。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>		支援目標、支援内容について説明をし、保護者の同意を得ています。	内容についてご意見があれば、内容の変更も踏まえて柔軟に対応して、同意を得るようにしていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>		毎回支援後の15分の振り返りや事業所内相談で、相談に適切に応じています。	ご家族からの悩み等を傾聴し、必要に応じて助言を行っていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		<input type="radio"/>	1対1の個別療育が主のため、保護者会等は開催していませんが、保護者同士が歓談できる環境にはなっています。	保護者のニーズを確認しながら、保護者同士の連携を支援していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>		相談・申入れについては迅速に対応する体制を取っており、どの職員も事業所内で対応します。	その場ですぐにお答えできない場合は、職員間で協議したうえで、後日改めて回答するようになります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>		ホームページでのブログやX(旧twitter)、LINEを使って情報発信をしています。	今後もネットを有効活用して、こどもや保護者に情報発信をしていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>		契約時に「個人情報に関する同意書」を交わしており、個人情報の取り扱いには十分留意しています。	今後も個人情報の取り扱いには細心の注意を払います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		絵カードなどで視覚化する、マカトン法を用いる、タブレットの使用、LINEでの情報提供など、個別に対応しています。	意志疎通が難しくても、その人には必ず意思はあるという前提から、丁寧に対応していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		<input type="radio"/>	地域住民を招待するような行事はありませんが、平成29年11月から開所しており、地域には知られるようになっています。	今後も地域に当事業所の存在を認知してもらえるように努めています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		緊急時の対応等について、保護者に契約時に説明しています。また定期的に訓練も行い、その報告を玄関に掲示しています。	今後も非常災害などを想定した訓練を行っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		業務継続計画を策定し、感染症発生を想定した訓練や、非常時の連絡訓練などを行っています。	今後も非常事態を想定した訓練を実施していく、万が一に備えていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		保護者からの情報をもとに、服薬があるこども、てんかん発作などのあるこどもについて、事業所内で共有しています。	事前に発作時の対処法を保護者から聞いているので、発作が起きた場合でも冷静に対処できるようにしていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		<input type="radio"/>	当事業所は食事の提供がありませんが、アレルギーのある児童の情報は把握しています。	アレルギーのある児童は、粘土の使用などに配慮していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		定期的にヘルメットなどの備品確認をしています。夏季は支援中でも水分補給を促し、熱中症対策をしています。	安全管理が行き届いた環境を整えていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		安全計画を教室内に掲示しています。災害用伝言ダイヤルも同様に掲示しています。	ご家族への周知が難しいので、折に触れて周知できるようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		どの職員も事業所内スプレッドシート上にヒヤリハットを記録できて、閲覧できるようになっています。	個人の責任追及でなく、職員全体で再発防止の解決策を考えられるように共有していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		年1回以上、虐待防止・身体拘束委員会を開き、事業所内研修を行っています。	今後も職員研修の機会を確保していき、虐待の防止に努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		契約時に重要事項説明書を通じて、身体拘束について保護者に説明しています。	やむを得ない身体拘束は必ずガイドラインに基づく三要件を確認して、記録や保護者の同意を得ます。